

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
麻生医療福祉 専門学校福岡校	平成9年2月13日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
目的	近畿大学九州短期大学通信教育部保育科併修による短大卒(保育科)と保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得とともに、レクリエーションインストラクター資格の取得を目指す。また、人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を認識し、知識・技術・人間性を高めることで、乳幼児保育の分野で広く活躍できる人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・ 社会福祉	福祉・教育専門課程	こども未来学科	平成21年文部科学 大臣告示第22号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3014	1390	696	480	0	560
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120 人	96 人	3 人	29 人	32 人			
学期制度	前 期: 4月1日～9月30日 後 期: 10月1日～3月31日		成績評価	成績表: 有 成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価			
長期休み	夏 季: 8月8日～9月9日 冬 季: 12月26日～1月6日 春 季: 3月10日～4月10日		卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度			
生徒指導	クラス担任制: 有 長期欠席者への指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、三者面談の実施。		課外活動	課外活動の種類 ボランティア活動 サークル活動: 有			
就職等の状況	主な就職先、業界等 幼稚園、保育園 就職率^{※1} : 96.9 % 卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 86.1 % その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年4月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	幼稚園教諭二種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格			
中途退学の現状	中途退学者 11 名 中退率 10.3 % 平成27年5月1日 在学者 107 名 (平成27年4月 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 96 名 (平成28年3月 卒業者をを含む)						
	中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など						
	中退防止のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。						
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のため、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の併修をし、指定されたカリキュラムで授業科目を編成。また、就職先に対して実施するお客様アンケートにより現場のニーズを把握し科目編成に生かす。なお、実習先へのヒアリング等を基に、指定カリキュラムでは不足している知識・技術を補完するための科目を追加し、現場のニーズに即した授業科目の編成を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
天野 恵	社会福祉法人まごころ会 あゆみらい保育園 主任
阿部 良寛	学校法人寶晃学園 光明幼稚園 園長
渡邊 裕子	福岡県知的障害者福祉協会
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐
岩下 隆司	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任
前田 聖悟	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員
上村 仁美	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員

(開催日時)

第1回 平成27年 6月27日 14:30~16:00

第2回 平成27年11月 7日 14:00~16:00

(開催予定)

第1回 平成28年 6月25日 14:30~16:00

第2回 平成28年11月11日 14:00~16:00

第3回 平成29年 3月 3日 18:00~20:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のための必須の単位実習であり、幼稚園・保育所・児童福祉施設の社会的な役割や保育者の役割、施設の一日の流れ、児童について理解することを目的とする。また、習得した知識・技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的として実施。実習施設の状況および担当クラスに合わせ見学実習・観察実習・部分実習・全日実習等の実習カリキュラムを調整し実施すると共に、課題の設定および達成を行っていく。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
教育実習Ⅰ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習行う。	博多幼稚園、博多東幼稚園、甘木双葉幼稚園、前原幼稚園、あすなる幼稚園 他

<p>教育実習Ⅱ</p>	<p>幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習(部分実習または全日実習)を行う。</p>	<p>博多幼稚園、博多第一幼稚園、くすの木幼稚園、甘木幼稚園、淡水幼稚園 他</p>
<p>保育実習Ⅰ(保育所)</p>	<p>これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。</p>	<p>あゆみらい保育園、なかがわ保育園、どんぐり保育園、木の実保育園、だきしめ保育園 他</p>
<p>保育実習Ⅰ(施設)</p>	<p>施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。</p>	<p>若久緑園、田川湯山荘、甘木山学園、菊水学園、鷹巣学園 他</p>
<p>保育実習Ⅱ</p>	<p>保育実習Ⅰ(保育)での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、現在求められている子育て支援に必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。</p>	<p>城の原保育園、天星丸保育園、あすなろ保育園、内浜保育園、那珂保育所 他</p>
<p>保育実習Ⅲ</p>	<p>保育実習Ⅰ(施設)で習得した知識や理論を踏まえて、保育士として必要な資質・能力・技術の向上を目的とする。また、現在の児童福祉施設をとりまく家庭と地域の生活実態にふれ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを目的とする。</p>	<p>開成学園、下関泰平学園、あけぼの学園、すみれ園、福岡育児院 他</p>

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

専門分野に関しては、保育現場の現状を把握すると共に、現場で求められる人材、知識、技術を把握し、最新の情報を学生に伝えるために、各種協会等が実施する研修等へ参加。また、実習施設、就職先等との意見交換等も行い、情報収集および知識の向上を図る

授業および学生に対する指導力等の修得・向上に関しても、本校の教職員研修規定に則って、教員の経験・スキル・目標に応じた研修が、組織的かつ計画的に行われている。

なお、これらの研修に参加した教員は、研修を通じて修得した知識・技能等について、他教員と共有するために学内での勉強会において随時発表する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
玉ノ井 敏子	社会福祉法人 まごころ会 あゆみらい保育園 園長
渡辺 裕子	社会福祉法人 宰府福祉会 すみれ園 園長
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ 理事長
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長
潮田 大介	有限会社 ケンルック 事務長
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長
住吉 夏実	社会医療法人 財団白十字会 白十字病院 庶務課広報係り 主任
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務次長
池田 典生	一般財団法人 日本医療教育財団 福岡支部長
熊谷 智彦	学校法人 久留米学園 久留米学園高等学校 校長
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役
中島 文香	こども未来学科 在校生保護者
野上 祐子	社会福祉科 在校生保護者
蒲池 桂子	心理カウンセラー科 在校生保護者
多久島 恵子	介護福祉科 在校生保護者
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 在校生保護者
佐藤 豊枝	医療秘書科 在校生保護者
塚本 明子	医療情報科 在校生保護者
岩丸 博美	診療情報管理士科 在校生保護者
山本 千紘	こども未来学科 卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生
大本 栞	医療秘書科 卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/hyoka_amkc.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 こども未来学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			教育心理学	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考える。	1前	16		○			○			○		
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかると共に、将来あるいは現在、保育者として、親として、一人の大人として、現実一人ひとりの子どもに具体的にどのように対処していけばいいのか、あるいは実際の教育問題にどう対処しどう解決していけばいいのかなどといった教育をめぐるきわめて重大な課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための基礎を培う。	1前	30		○			○			○		
○			造形表現（指導法）	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	30		△	○		○			○		
○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得する。また、乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明ができるとともに、保育現場における実践を構想できる力を培う。	1前	30		○			○			○		
○			人間関係（指導法）SC	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。	1前	16		△	○		○			○		
○			造形表現（指導法）SC	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	16			○		○			○		
○			音楽表現（指導法）SC	0才からの音楽的あやし言葉かけ遊び、月令、年令に応じた手遊びやリズム遊び、歌唱曲を動きのある遊びに創作したり、それを実践するなど遊びを中心に実践する。	1前	16				○		○			○	
○			環境（指導法）SC	現代の環境で子ども達の生きる力を培うための保育の工夫、すなわち、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1前	16			○			○			○	

○		音楽表現 I	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1前	46				○	○									
○		合奏 I	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1前	16				○	○									
○		養護原理	社会的養護を必要とする子どもの現実と養護実践の課題を学ぶ	1前	16			○		○									
○		教育実習指導 I (教育課程総論)	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。 また、教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1前	30			○	△	○			○						
○		保育実技 I	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）	1前	16					○	○								
○		レクリエーション I	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の理論を習得する。	1前	30				○		○								
○		コミュニケーション論	コミュニケーションの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	1前	16			○			○								
○		レクリエーション演習	レクリエーション援助の方法と技術とは何かを考え、支援の考え方の変化を学ぶ。	1前	30				○		○			○					
○		交流ゼミ I	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1前	16				○		○			○					
○		GCB I	「感謝と思いやり」をテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1前	16			○			○			○					
○		教職概論	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標とする	1後	30			○			○			○					

○		社会的養護	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設入所児童に対する、社会的養護の基本的なあり方（養護についての考え方、および児童の保護（衣・食・住）、指導、治療権利擁護、自立支援などについての理論と実際を専門的に、科学的に探究すること）を学ぶ。	1後	30		○			○									
○		英会話 I	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	1後	16				○		○								○
○		健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高めることにくわえ、合理的な運動実践の習慣化を図る上での条件整備のあり方について学ぶ。	1後	16				○			○							○
○		教育心理学 SC	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を学ぶ。	1後	16				○			○							○
○		音楽（器楽・声楽）① SC	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	1後	16							○		○					○
○		劇あそび（指導法） SC	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発育発達を促し、リズム感をつけるとともに、体を通して、感じたこと、思ったこと、考えたことなど動きで様々な表現が出来るよう、指導・援助法を学ぶ。	1後	16							○		○					○
○		健康（指導法） SC	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	1後	16				○				○						○
○		言葉（指導法） SC	言葉（言語）の発達に関する理論、言葉の発達における子どもを取り巻く環境の影響について、特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。また、保育所保育指針「領域言葉」を理解し、子どもの言葉をはぐくむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	1後	16							○		○					○
○		教育実習事前事後指導 SC	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教科目で習得した知識や技能と幼稚園における教育実践とを具体的に統合することによって教育実習に対する意欲や課題意識を高める。	1後	16				○		△			○					○
○		英会話 I SC	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	1後	16							○		○					○

○		教育実習 I	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習行う。	1 後	80					○		○	○	○	○
○		音楽表現 I - ②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1 後	46					○	○			○	
○		合奏 I -②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1 後	16					○	○			○	
○		教育実習指導 I-②	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1 後	30			○	△		○		○		
○		保育実技 I - ②	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1 後	30					○	○			○	
○		レクリエー ション II	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の基礎技術を習得する。	1 後	30					○	○			○	
○		カウンセリング 概論	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1 後	16					○		○		○	
○		乳幼児の発達 I	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	1 後	16					○		○		○	
○		総合演習 I	各授業で学んだ内容のつながりを認識し、知識を深める	1 後	60					○		○		○	
○		ペン字 I	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	1 後	16					○		○		○	
○		交流ゼミ I - ②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1 後	16					○		○		○	
○		LHR I	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	1 後	30					○		○		○	
○		児童家庭福祉	将来を担う子どもたちに向かう児童家庭福祉実践者として、基本的・体系的に学習し、現在の児童家庭福祉（子ども家庭福祉）に関する知識と理解をしていく。	2 前	30					○		○		○	

○		保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと、そして保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。	2前	30		○		○											
○		子どもの保健 I ①	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	2前	30		○		○											
○		幼児体育 II	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、特に、幼児体育を実践する上で必要な保育技術と教材づくりに関する実践的知識を習得する。	2前	16				○	○										
○		図画工作 II	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関しての基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16				○	○										
○		子どもの食と栄養	小児の発育・発達の特徴、栄養に関する基本的な知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）、食教育の重要性を理解する。	2前	16				○	○										
○		子どもの食と栄養 SC	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得をめざす。	2前	16					○	○									
○		生涯スポーツ SC	高齢者、障がい者をも含めた各種スポーツの技能の向上を中核目標としながら、それに関わるスポーツ発展史（ルール史、用具史、戦略・戦術史）の理解を深めたり、国民スポーツの諸相と課題について学ぶ。	2前	16					○	○									
○		図画工作 SC	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関しての基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16					○	○									
○		保育内容総論 SC	保育所保育方針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解すると共に、擁護と教育が一体的に展開することを、具体的な保育実践につなげて理解する。また、保育現場を取り巻く諸問題を複眼的にとらえ、保育の多様な展開に対応できる知識や技術を身につける。	2前	16				○	○										
○		教育実習 II	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習（部分実習または全日実習）を行う。	2前	80					○	○	○	○	○	○					

○		音楽表現Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2前	46				○	○									
○		合奏Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2前	16				○	○									
○		幼稚園実習指導Ⅱ	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2前	30			○	△		○								
○		保育園実習指導Ⅰ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2前	16			○	△		○								
○		保育実技Ⅱ	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）	2前	16						○	○							
○		カウンセリング演習	カウンセリングの基礎について学び、実践的なカウンセリング技法を習得する。	2前	16					○		○							
○		乳幼児の発達Ⅱ	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	2前	16				○			○							
○		交流ゼミⅡ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2前	16					○		○							
○		情報処理入門Ⅰ	情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて理解する。	2後	30					○		○							
○		家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考えると共に、子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。また、保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が、社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	2後	30					○			○						
○		障害児保育	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達の变化を促す保育的援助について考える。	2後	16					○			○						

○		子どもの保健 I ②	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	2 後	30		○			○									
○		発達心理学	発達心理学者として乳幼児教育に多大な影響を与えたJ. McV. ハント博士の理論を通して乳幼児の精神発達とその教育について学ぶ。	2 後	30		○			○									
○		健康 II	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	2 後	16		○			○									
○		音楽（器楽・声楽）② S C	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	2 後	16					○		○							
○		保育実習事前 事後指導 I (保育所) S C	保育実習（保育所）を円滑に行うために、保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2 後	16		○	△		○		○							
○		情報処理入門 I S C	Word（ワープロ）・Excel（表計算）・Power Point（プレゼンテーション）のオフィススイートの基本操作を習得する。	2 後	16					○		○							
○		幼児体育 S C	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、幼児体育を実践する上で必要な運動遊びのレパートリーを習得すること、さらに、そうした遊びの連続性・発展性を広げていく上での視点に関わった実践的知識を習得する。	2 後	16					○		○							
○		言語表現 S C	保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2 後	16		○	△		○		○							
○		保育実習 I (保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	2 後	80					○		○		○		○		○	
○		音楽表現 II - ②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2 後	46					○		○							○
○		合奏 II -②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2 後	16					○		○							○

○		保育園実習指導Ⅱ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2後	30		○	△		○	○						
○		保育実技Ⅱ-②	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	2後	16					○	○						○
○		就職実務Ⅰ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	2後	16		○				○						○
○		総合演習Ⅱ	1年次の学習内容を踏まえ、より実践的な指導方法を学ぶ	2後	46					○	○						○
○		交流ゼミⅡ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2後	16					○	○						○
○		GCBⅡ	「志を立てる」をテーマに、夢・ビジョン・志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	2後	16		○				○						○
○		LHRⅡ	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	2後	30		○				○						○
○		日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が求めている理念とは何か、また、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていく。	3前	30		○				○						○
○		乳児保育	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	16		○				○						○
○		社会福祉	将来において「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基本的な事項を学ぶ。	3前	30		○				○						○
○		教育相談	子どもの世界や保育士の役割についての理解を深めることを通して、子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶ	3前	30		○				○						○

○		保育・教職実践演習	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3前	16		△	○	○	○								
○		社会的養護内容Ⅱ	社会的養護内容の中でも特に施設用語に焦点をあてて、各種自動施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。また、専門職員の職務内容の理解や連携の理論を学習すると共に、児童の正常な成長と発達を保障し、援助することのできる知識、技術の習得と児童館の醸成を図ることを目的とし、実践的な保育力を培うために可能な限り現場を意識し、実際の場面を騒動し体感する学びを実施する。常に理念と並行して具体的な子どもへの関わりのスキルを学ぶ。	3前	16		○		○									○
○		保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)SC	保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。なお、実習後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	3前	16		○	△		○								○
○	○	【選択】保育実習事前事後指導ⅡSC	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 (保育実習事前事後指導ⅡSCと保育実習事前事後指導ⅢSCのいずれかを選択)	3前	16		○	△		○								○
○	○	【選択】保育実習事前事後指導ⅢSC	子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家族への支援など保育の実践力を養うことを目的とする。さらに、児童福祉施設以外の施設についても理解を深める。 (保育実習事前事後指導ⅡSCと保育実習事前事後指導ⅢSCのいずれかを選択)	3前	16		○	△		○								○
○		乳児保育SC	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	16		○			○								○
○		子どもの保健ⅡSC	子どもの健康と生命を守るための実践力を身につける。	3前	16		○			○								○
○		保育相談支援SC	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	3前	16		○			○								○

○		障害児保育 S C	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達の变化を促す保育的援助について考える。	3前	16		○			○									
○		社会的養護内容 S C	養護原理をふまえて、社会的養護の中でも特に施設養護に焦点をあてて、各種児童施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。	3前	16		○			○									
○		相談援助 S C	将来に保育士を目指す者にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を修得する。	3前	16		○			○									
○		保育実習 I (施設)	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	3前	80					○		○	○	○	○	○			
	○	【選択】保育実習 II	保育実習での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質・能力。技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。 (保育実習 II と保育実習 III (施設) のいずれかを選択)	3前	80					○		○	○	○	○	○			
	○	【選択】保育実習 III	保育実習 I での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質・能力・技術の向上を目的とする。また、施設をとりまく家庭と地域の生活実態にふれ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを目的とする。 (保育実習 II と保育実習 III (施設) のいずれかを選択)	3前	80					○		○	○	○	○	○			
○		音楽表現 III	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3前	30					○		○							
○		ペン字 II	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	3前	16					○		○							
○		一般教養 I	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3前	16					○		○		○					
○		児童福祉施設実習指導	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	3前	46		○	△		○		○							

○		【選択】保育 実習指導	保育所の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。 (施設実習指導と保育実習指導のいずれかを選択)	3 前	16		○	△		○		○	
○		【選択】施設 実習指導	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。 (施設実習指導と保育実習指導のいずれかを選択)	3 前	16		○	△		○		○	
○		卒業論文	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3 前	30		○			○		○	
○		就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3 前	30		○			○		○	
○		交流ゼミⅢ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3 前	16				○		○		○
○		保育・教職実 践演習SC	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、形成されているかどうかを検討する。	3 後	16				○		○		○
○		音楽表現Ⅲ- ②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3 後	30					○		○	
○		マナー	名刺交換など初対面のビジネスマナー、社会人一年目の正しい言葉遣い、保護者対応、職場内でのマナー、連絡帳の記入方法などを身に付ける。	3 後	16		○	△		○		○	
○		ペン字Ⅲ	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3 後	16				○		○		○
○		障害児保育Ⅱ	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解をさらに深めていく。そして、障害児の発達の變化を促す保育的援助について考える。	3 後	30		○			○		○	
○		保育実技Ⅲ	保育士・幼稚園教諭として必要な技術(手遊び、製作、遊びなど)を自ら考え、実行できる能力を身に付ける	3 後	30					○		○	

○		児童家庭福祉Ⅱ	「児童家庭福祉」で習得した児童家庭福祉全般についての基礎知識と「相談援助」で学ぶ社会福祉の専門的方法を基礎として、児童の生存権や発達権を保障するためのすべての子どもや家庭に対するサービスの援助技術・方法の基本的知識に関する理解を深める。	3後	16	○			○										
○		保育・教職実践演習Ⅱ	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3後	30			○		○									
○		一般教養Ⅱ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3後	16			○			○								
○		自主実習演習	保育所、幼稚園、施設等への実習やボランティアを通して、更なる知識、技術の向上を目的とする。また、実習・ボランティア先との連絡や準備等、主体的に活動を行うことで自主性、積極性の醸成を目的とする	3後	30				○		△		○		○				
○		選択授業	各自の知識、技術の向上を目的に、ピアノ技術の向上や障害児の知識などを学ぶ	3後	16			○				○							
○		卒業研究	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	3後	30			○				○			○				
○		就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3後	30			○				○			○				
○		総合演習Ⅲ	保育園、幼稚園との連携を深め、より実践的な保育技術の向上を行い、就職活動に活かす。	3後	30					○			○			○			
○		自然体験基礎	動植物に触れる機会を設け、子どもたちへの指導方法を学ぶ	3後	30					○			○			○			
○		交流ゼミⅢ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3後	16					○			○			○			
○		LHRⅢ	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	3後	16					○			○			○			
合計			122 科目			3014 単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。 	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。